

事業報告書

～だれもが地域で安心して暮らせるまちづくり～

令和 6 年度 独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業



WAM 助成

独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

社会福祉法人 日本厚生学園

1. 事業概要

当法人が公益事業として柳川市に開所している地域食堂ぼたもつつぁんにおいて、だれもが地域で安心して暮らせるまちづくりを目的として、以下の(1)から(4)までの取り組みを行った。

(1)子育て世代が地域の人や専門職と気軽に交流し、子育てのアドバイスや支援を受けたり、気持ちを共有したりし、子育ての孤立を防ぐ。

(2)子どもが自己肯定感を育んだり、コミュニケーション能力を高めたりしながら、地域の中で子育てをする仕組みを作り上げる。

(3)多世代の地域の方々が交流する中で、異なる価値観への理解を深める。

(4)地域の情報を集めて、早期に孤立や引きこもり、安否確認などを行う。

上記の取り組みを行うために、柱立てを1から3まで設定し、事業を進めていった。

● (柱立て1)

子ども・若者を地域全体で育て・守る事業

子ども・若者たちが地域での活動や交流の場が減少している中で、孤立した家庭環境を地域住民や専門職など、地域全体で子育てできる交流の場の体制を構築する。

具体的には、定期的な地域食堂の開催及び絵画教室や音楽教室、学習支援を実施する。

● (柱立て2)

高齢者や子ども家庭など孤立しがちな家庭を救い上げるアウトリーチ事業

地域食堂やコミュニティーセンターへ来られている方だけではなく、自宅から出て来られない、もしくは地域で孤立している家庭が虐待など生まないため状況を早期に関係機関へつなげられるよう、民生委員や行政、地域住民などと一緒にアウトリーチを行う手段を提供する。

具体的には、定期的に校区の民生委員の方々と一緒にお弁当や食料等を配達する。

- （柱立て3）

スタッフ養成講座・相談会・座談会

居場所スタッフの拡充および育成を図る。また、子育て家庭の保護者などが気軽に相談できる場を提供し、虐待や DV 被害など生まないように予防する。

具体的には、外部専門家による研修会、相談会、ママさん座談会など定期的に実施する。

2. 事業成果

- (1)子育て世代が、地域の人や臨床心理士などの専門職と気軽に交流し、子育てのアドバイスを受けたりする機会を提供することができた。
- (2)不登校の状態にある子どものための居場所づくり、焼き芋、ぜんざい会、駄菓子屋さん、人形劇、各種製作などのイベントを通して、子どもたちが交流する機会を提供することができた。
- (3)多世代の地域の方々が交流する居場所を提供し、様々な価値観に触れる機会を提供することができた。
- (4)地域の方々から困りごとなどの相談を受け、地域の課題を把握することができた。

2-1. (柱立て1)子ども・若者を地域全体で育て・守る事業

音楽イベント、各種製作、クリスマス会、おにぎりアクションなどのイベントを開催し、地域の子どもたちが交流する機会を提供した。

い草製品などの製造している地元の会社の方に協力していただき、い草によるコースターづくり、クリスマスのリース、しめ縄を作る体験を子どもたちに提供することができた。

柳川市社会福祉協議会、地域の方々と連携し、芋の苗植え、芋の収穫体験のイベントを開催した。参加者の方々に楽しんでいただける機会を提供することができた。

表2-1. 柱立て1の事業実績

対象者の層	地域の子ども、保護者、地域住民	
日時 および回数	教室	年 18 回
延べ人数 および実人数	教室	1回当たりの実人数 42 人、延べ 772 人(大人 383 人、子ども 389 人)

しめ縄づくり



バッグづくり



い草コースターづくり



木工体験



農園



2-2. (柱立て2)高齢者や子ども家庭など孤立しがちな家庭を救い上げるアウトリーチ事業

当初の計画では、独居高齢者等にお弁当を配達する計画であった。しかし、自宅以外での居場所作りが必要であるという認識のもと、週2回の頻度で地域食堂を開き、ワンコインで食事を提供した。

小学生以下の子どもたちには、無償で食事を提供した。

また、不登校の状態にある子どもを対象として、週1回の頻度でぼたもつつあんを開放し、自由に来て過ごすことができる居場所づくりを行った。具体的には、工作や運動等の活動を行い、配膳のお手伝いをしてもらいつつ、1人200円で食事を提供した。

不登校の状態にある子どもたちの居場所づくりの活動は、最初は口コミで活動の輪を広げていっていた。活動を続けていく中で、柳川市内のスクールソーシャルワーカーの方々が活動の様子を見学に来られた。柳川市内の各校区において、ぼたもつつあんでの活動に参加されませんかというお声がけをしていただいた。

表2-2. 柱立て2の事業実績

対象者の層	独居高齢者、生活困窮状態にある子ども、保護者	
日時 および回数	地域食堂	週2回、年77回
	居場所づくり	週1回、年19回
延べ人数 および実人数	地域食堂	1回当たりの実人数11人、延べ約870人
	居場所づくり	1回当たりの実人数8人、延べ161人(保護者119人、児童42人)

地域食堂



不登校の状態にある子どものための居場所づくり



2－3. (柱立て3)スタッフ養成講座・相談会・座談会

ベビーマッサージ、ヨガ体験、アロマによる感染症予防、女性ホルモンに関する講演会、乳幼児発育・発達についての講演会、ゆるっとカフェ、作業療法士による健康体操などを行った。

外部専門家と地域の方々がつながる機会を提供することができた。

表2－3. 柱立て3の事業実績

対象者の層	スタッフ、ボランティア、子育て家庭
日時 および回数	年間 48 回
延べ人数 および実人数	1回当たりの実人数約8人、延べ 410 人(大人 298 人、子ども 112 人)

乳幼児発達発達講演会



女性ホルモンについての講演会



ベビーマッサージ



ヨガ教室



3. 今後の事業展開について

引き続き、地域の方々が安心して暮らせるまちづくりを目指して、地域食堂や様々なイベントを開催していく。

不登校の状態にある子どもたちの居場所づくりを引き続き週1回の頻度で開催していく。保護者や子どもたちと話をする中で、悩み等の相談があれば、各種専門家につないでいく活動を行っていく。

小学生以下の食事を無償で提供し、子どもたちの居場所づくりを行う。未就学の幼児には、量を調整した上で、食事を無償で提供していく。

工作体験等のイベントに関して、今までは助成金により材料費を無償とすることができていた。今後は、事業の持続性を考慮して、材料費のみ実費でご負担いただく形で、活動を継続していく。



社会福祉法人 日本厚生学園

〒837-0922
福岡県大牟田市大字今山755

TEL:0944-53-8204
FAX:0944-41-1110

Web:<https://kousei-gakuen.jp>